

ジェネレーションギャップを楽しもう

公益社団法人埼玉県診療放射線技師会
会長 田 中 宏



誰しものが一度は“酒の肴”にしたことがある話題である。

「オレがお前くらいの時はよー、先輩から仕事を教わるときは…だったんだぜー」

「今はいいよなー」

しかし、それを言われた若者が心の中で「だからなんなんだよ！昔は関係ねーし！」と呟いているのが容易に想像がつく。

ジェネレーションギャップというワードは、ときに上司と部下、先輩と後輩の人間関係がギクシャクする場面で使われることがある。しかし、ジェネレーションギャップとは、はたして無い方が良いのであろうか？

私はアラフィフであるが、子供の頃、親からは、「戦争中には白い米のメシは食えなかったんだぞ」とか、先輩や上司から「お前たちの世代は新人類だよ」と言われたことがある。その時、心の中で「またかよ。オジサンはクドイよな。また同じこと言っているよ」と思ったかどうかは、記憶が定かでない。

1970年にジローズの「戦争を知らない子供たち」という歌が大ヒットとなった。当時はベトナム戦争真っ只中でもあり、また「今の若者は戦争にも行っていないくせに生意気言うな」というフレーズも記憶に残っている。

私が就職したころはバブル時代の終焉であり、ブランドのスーツに高級腕時計を身に付け、車はソアラかBMWで、そのためのハードなバイトは当たり前であった。三高という言葉も流行った。「高学歴・高収入・高身長」は、当時の女性が結婚相手に選ぶ条件である。

それに比べ、今はユニクロでライトにセンス良くまとめ、デートは公共交通機関で移動し、オシャレなお店でワインを飲む。30年前はそれなりに面白かったが、今の時代の方が成熟しているし、正直、今の若者の方が賢いと思う。

ジェネレーションギャップはいつの時代でも世代間のテーマであり、あって当然なのである。

時代とともに変わるものが「価値観」であるとすれば、変わらないものが「価値」である。「価値」とはあいさつをしたり、身だしなみを整えたり、相手に対する思いやりなどである。そして仕事の責任もその一つである。

今の時代を昔の「価値観」で評価してはならないし、また今の「価値観」で昔の時代を評価してはならない。

アラフィフになり、自分には持っていない今の価値観を知ることが楽しく思える。

次の時代を託すのは今の若者なのだ。